

かゆいところに手が届く！ —多摩・島しょ自治体お役立ち情報—

「かゆいところに手が届く！多摩・島しょ自治体お役立ち情報」は、市町村の職員が日頃の業務で感じている疑問や他の自治体、民間企業などの動向、今さら聞けない行政用語など、知りたいと考えている事項について自治調査会が調査し、問題点や課題などを明らかにすることを目的に実施しています。

議会資料のペーパーレス化を通じた業務改善について

調査部研究員 秋野 宏明（東久留米市派遣）

1. はじめに

行財政改革が進む地方自治体においては、住民サービスの向上と、行政運営における事務の効率化を図ることは必要不可欠です。

議会資料を大量の紙で印刷して配付する自治体はまだ多くありますが、紙で配付するメリットはあるにしても、印刷する手間と資源の無駄を考えれば見直しの余地があります。この改善のための一つの方策として、ペーパーレス化が考えられますが、ペーパーレス化に踏み切れていない自治体も多いと推測されます。

国会においては、2018年6月に超党派の議員連盟『『平成のうちに』衆議院改革実現会議』が発足し、7月に「衆議院におけるタブレット端末を導入・活用すべきである」との提言がなされました^[1]。

都議会においても、2019年6月の定例会から議員全員にタブレット端末を貸与し、資料をペーパーレス化することに決めました^[2]。

国会や都議会は既にペーパーレス化に向けて動き始めており、多摩・島しょ地域自治体でも取組が加速する可能性があります。

そこで、本稿では多摩・島しょ地域自治体における議会資料のペーパーレス化について、アンケート結果を基に現状やメリット等の整理を行い、導入に向けての課題や取組方策等を示していきます。

2. 多摩・島しょ地域自治体の状況

多摩・島しょ地域自治体は、議会資料のペーパーレス化にどの程度取り組んでいるのか、アンケート結果から現状を確認していきます。

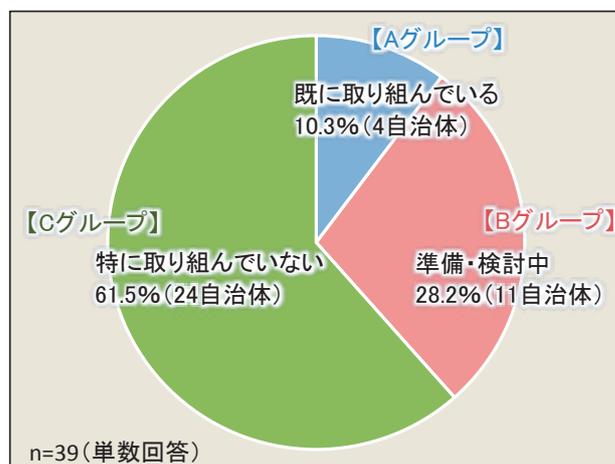
○多摩・島しょ地域自治体アンケート概要
対象自治体：多摩・島しょ地域全39市町村
対象部署：議会関連事務担当部署
実施時期：2018年10月5日～22日
調査基準日：2018年10月1日

(1) 取組状況

①現在の状況

図表1は、現在、議会資料をペーパーレス化（＝タブレット端末を導入）しているかどうかを聞いたものです。

▼図表1 議会資料のペーパーレス化の状況



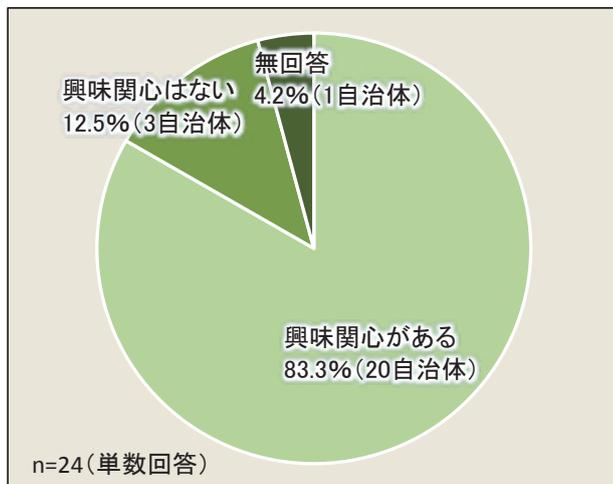
6割以上の自治体が、ペーパーレス化に特に取り組んでいないことが分かります。

ここから先は便宜上、「既に取り組んでいる」自治体群をAグループ、「準備・検討中」自治体群をBグループ、「特に取り組んでいない」自治体群をCグループとします。

②興味関心

図表2は、Cグループの自治体に、議会資料のペーパーレス化についての興味関心を聞いたものです。

▼図表2 議会資料のペーパーレス化への興味関心



24自治体のうち20自治体、実に8割以上が「興味関心がある」と答えています。

この結果から、特にペーパーレス化に取り組んでない自治体でも、多くは興味関心を持っていることが分かります。しかし、実現に向けては何らかの障壁があると考えられます。

(2) ペーパーレス化における障壁

図表3は、ペーパーレス化に取り組んでいないB・Cグループに、何が障壁となっているのかを聞いたものです。

理由として、Bグループでは「⑤導入の費用対効果が不明確」、「①予算が確保できない」が挙げられました。

Cグループでは「⑤導入の費用対効果が不明確」、「⑦導入の機運が高まっていない」、「①予算が確保できない」が挙げられました。

▼図表3 議会資料のペーパーレス化における障壁

障壁 (複数回答)	回答した自治体数	
	Bグループ (11自治体)	Cグループ (24自治体)
① 予算が確保できない	6	11
② 人員が不足している	1	4
③ 議員の理解が得られない	2	7
④ 職員の理解が得られない	0	2
⑤ 導入の費用対効果が不明確	10	17
⑥ どのように取り組めば良いかわからない	2	4
⑦ 導入の機運が高まっていない	3	16
⑧ その他	4	4

(3) ペーパーレス化におけるメリット

図表4は、多摩・島しょ地域自治体が認識もしくは想定している、議会資料のペーパーレス化におけるメリットです。

▼図表4 議会資料のペーパーレス化におけるメリット

メリット (複数回答)	回答した自治体数		
	Aグループ (4自治体)	Bグループ (11自治体)	Cグループ (24自治体)
① コスト削減につながる	3	3	15
② 職員の労務負担軽減につながる	2	4	13
③ 修正や差し替えが簡単にできる	3	9	18
④ 資料をカラーで見ることができる	3	6	11
⑤ 資料をいつでもどこでも見ることができる	4	8	10
⑥ 資料が経年劣化しない	3	4	9
⑦ 資料を探しやすい	4	8	9
⑧ 資料の保管スペースを削減できる	3	9	18
⑨ 環境に配慮できる	3	5	16
⑩ その他	1	2	1

全般的に、どの項目もメリットとして多く回答されていますが、既に取り組んでいるAグループでは「⑤資料をいつでもどこでも見ることができる」、「⑦資料を探しやすい」、また「①コスト削減につながる」、「③修正や差し替えが簡単にできる」、「⑧資料の保管スペースを削減できる」等に回答が多く集まりました。

一方、準備・検討中のBグループが想定する